

資源価格の下落は、業界を急激に厳しい状況に追い込んだ。そうしたなか、大阪府茨木市から「元氣な企業」として認められ、エネルギーギッシュな事業を続ける資源リサイクル業社がある。1973年に古紙卸売り業として創業したユニクル(大阪府茨木市)だ。同社の入江金男社長に強さの理由を聞いた。



入江金男社長

売り上げよりもまずお客様に喜んでもらうことを第一としてい

度。お客様に喜んでいただくには、設備が与えられたが、意気込みは落ちていない。クレームもお客様から学ばせていただいていると受け取っている。

弊社に入社するためには、実地研修(日本創造教育研究所)を受けることを条件として

ユニクル エネルギーギッシュな経営を持続

経営感覚、社員レベルまで浸透

いるが現在、10人全員が正社員として働く。社員は、今までの処理業界のイメージを一新する蝶ネクタイ、黄色いシャツ、赤いジャンパーを着用している。バリーを着ている。組みは10年以上続けてお、実力が付いてきたことを実感する。

向けては、ほぼ毎日1人以上が外部の研修・セミナーに参加し、その成果を発表させる。また、「理念と経営社内勉強会」を月に2回開催し、経営者向けの情報誌『理念と経営』で異業種から成功事例を学ぶ。設問を設け、ディスプレイも行っては、実地研修(日本創造教育研究所)を受けることを条件として

排出先での分別を徹底してもらっている。弊社は06年、「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」において、評価基準適合の認定を受けた。大阪府、大阪市、堺市、高槻市、兵庫県神戸市においては第1号の認定企業となった。プライバシーマーク認証取得と合わせ、社会的認知が広がり、自然と機密処理サービスでの需要も伸びている。

現在ようやく、土台ができて、お客様からも認められ始めた。今後後継の「人財」育成に注力していきたい。